

【I】 以下の問1から問5における取引要素の結合関係に該当する取引を、解答群から1つずつ選んで答えなさい。なお、商品売買に関する取引は、三分法によること。

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 解答群 | ア 商品を購入し、代金は現金で支払った。 |
| | イ 商品を購入し、代金は月末に支払うこととした。 |
| | ウ 商品を販売し、代金は現金で受け取った。 |
| | エ 商品を販売し、代金は月末に受け取ることとした。 |
| | オ 買掛金を小切手を振り出して支払った。 |
| | カ 売掛金を先方振り出しの小切手で受け取った。 |
| | キ 備品を購入し、代金は月末に支払うこととした。 |
| | ク 買掛金を約束手形を振り出して支払った。 |
| | ケ 株式を発行し、全株式の払い込みを受け、払込金額は普通預金とした。 |
| | コ 商品を注文し、内金を現金で支払った。 |

問1. 次の取引要素の結合関係に該当する取引を、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄1にマークしなさい。

取引要素の結合関係 (借方の要素) 資産の増加——(貸方の要素) 負債の増加

(A) ウ (B) カ (C) キ (D) ク

問2. 次の取引要素の結合関係に該当する取引を、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄2にマークしなさい。

取引要素の結合関係 (借方の要素) 負債の減少——(貸方の要素) 資産の減少

(A) イ (B) オ (C) キ (D) コ

問3. 次の取引要素の結合関係に該当する取引を、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄3にマークしなさい。

取引要素の結合関係 (借方の要素) 費用の発生——(貸方の要素) 負債の増加

(A) ア (B) イ (C) カ (D) コ

問4. 次の取引要素の結合関係に該当する取引を、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄4にマークしなさい。

取引要素の結合関係 (借方の要素) 資産の増加——(貸方の要素) 純資産の増加

(A) ウ (B) エ (C) ク (D) ケ

問5. 次の取引要素の結合関係に該当する取引を、次の(A)～(D)より1つ選び、解答欄5にマークしなさい。

取引要素の結合関係 (借方の要素) 費用の発生——(貸方の要素) 資産の減少

(A) ア (B) エ (C) オ (D) ケ

【Ⅱ】 次の資料に基づいて商品有高帳を作成した場合に、以下の問 6 から問 15 に答えなさい。

		数量	単価
1 月 7 日	仕入 掛け	200 個	180 円
11 日	売上 掛け	100	240
18 日	仕入 掛け	300	170
27 日	売上 掛け	250	220

商品有高帳

先入先出法		摘 要	受 入			払 出			(単位：個、円) 残 高		
202X 年			数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
月	日										
1	1	前月繰越	50	160						a	
	7		200	b						()	
										ア	
	11							イ			
								()			
	18		300	c					ウ	d	
									()		
	27							()			
						100	エ				
		次月繰越			e			f			g

問 6. 商品有高帳の残高欄の単価アとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

- (A) 170 (B) 176 (C) 180 (D) 198

問 7. 商品有高帳の払出欄の金額イとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

- (A) 8,000 (B) 8,500 (C) 8,800 (D) 9,900

問 8. 商品有高帳の残高欄の数量ウとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 8 にマークしなさい。

- (A) 100 (B) 150 (C) 200 (D) 250

問 9. 商品有高帳の払出欄の単価エと等しい単価として、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

- (A) a (B) b (C) c (D) d

問 10. 次月繰越高を記入する欄として、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

- (A) e (B) e と g (C) f (D) g

問 11. 当月の売上原価は払出欄のカ+キである。カとキの組み合わせとして、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 11 にマークしなさい。

	(A)	(B)	(C)	(D)
カ	8,000	17,000	27,000	36,000
キ	36,000	44,000	51,000	27,000

問 12. 当月の売上総利益として、次の (A) ～ (D) (単位：円) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

- (A) 13,500 (B) 18,000 (C) 24,000 (D) 27,000

問 13. 1 月 11 日の掛売り代金を得意先振り出しの小切手で回収した。仕訳として、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

- (A) (借) 現金 24,000 (貸) 売上 24,000
 (B) (借) 現金 24,000 (貸) 売掛金 24,000
 (C) (借) 当座預金 24,000 (貸) 売上 24,000
 (D) (借) 当座預金 24,000 (貸) 売掛金 24,000

問 14. 1 月 18 日の掛仕入の代金のうち 27,000 円をさきに得意先から受け取った約束手形を裏書譲渡して支払った。仕訳として、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 14 にマークしなさい。

- (A) (借) 買掛金 27,000 (貸) 受取手形 27,000
 (B) (借) 買掛金 27,000 (貸) 売掛金 27,000
 (C) (借) 買掛金 27,000 (貸) 当座預金 27,000
 (D) (借) 買掛金 27,000 (貸) 支払手形 27,000

問 15. 1 月 7 日の掛仕入の代金を支払うために振り出した小切手を仕入先が銀行に未提示であり、当社の当座預金勘定の残高が当座預金口座の残高を下回っていた。仕訳について、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 15 にマークしなさい。

- (A) (借) 現金 36,000 (貸) 買掛金 36,000
 (B) (借) 買掛金 36,000 (貸) 当座預金 36,000
 (C) 仕訳なし
 (D) (借) 当座預金 36,000 (貸) 買掛金 36,000

【Ⅲ】 次の決算整理事項にもとづいて精算表を作成した場合に、以下の問 16 から問 25 に答えなさい。なお、会計期間は X1 年 4 月 1 日から X2 年 3 月 31 日である。

[決算整理事項]

- (1) 期末商品棚卸高は、24,000 円である。
- (2) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、3%の貸倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額補充法による。
- (3) 建物は、定額法により減価償却を行う。残存価額は取得原価の 10%、耐用年数は 30 年である。
- (4) 消耗品費の未使用高は、2,200 円である。
- (5) 家賃は、毎年同額を 9 月 1 日に 1 年分として前払いしている。
- (6) 手数料は、X1 年 11 月 1 日に月額 3,000 円の受取額で 1 年後に 1 年分を受け取る契約をした。
- (7) 借入金は、X1 年 7 月 1 日に借入期間 1 年、年利率 4%で借り入れたものであり、利息は元金とともに返済時に支払うこととなっている。なお、利息の計算は月割りとする。

精 算 表

(単位：円)

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	88,000							
当 座 預 金	92,000							
受 取 手 形	38,000							
売 掛 金	42,000							
繰 越 商 品	21,000						ア	
建 物	500,000							
買 掛 金		49,000						
借 入 金		110,000						
貸 倒 引 当 金		1,300						
建物減価償却累計額		75,000						イ
資 本 金		440,000						
繰越利益剰余金		88,700						
売 上		627,000						
受 取 手 数 料		7,500				ウ		
受 取 利 息		2,600						
仕 入	351,000				エ			
給 料	190,000							
支 払 家 賃	68,000							
消 耗 品 費	7,900							
支 払 利 息	3,200							
	1,401,100	1,401,100						
貸倒引当金繰入					オ			
減 価 償 却 費								
()							カ	
前 払 家 賃							キ	
未 収 手 数 料								
未 払 利 息								ク
当期純()					ケ			
								コ

問 16. 精算表のアに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 16 にマークしなさい。

(A) 3,000 (B) 21,000 (C) 24,000 (D) 45,000

問 17. 精算表のイに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 17 にマークしなさい。

(A) 75,000 (B) 15,000 (C) 90,000 (D) 105,000

問 18. 精算表のウに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 18 にマークしなさい。

(A) 15,000 (B) 21,000 (C) 7,500 (D) 22,500

問 19. 精算表のエに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 19 にマークしなさい。

(A) 348,000 (B) 354,000 (C) 372,000 (D) 327,000

問 20. 精算表のオに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 20 にマークしなさい。

(A) 1,140 (B) 1,260 (C) 2,400 (D) 1,100

問 21. 精算表のカに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 21 にマークしなさい。

(A) 7,500 (B) 2,200 (C) 5,700 (D) 10,100

問 22. 精算表のキに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 22 にマークしなさい。

(A) 88,000 (B) 28,000 (C) 20,000 (D) 48,000

問 23. 精算表のクに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 23 にマークしなさい。

(A) 1,100 (B) 3,300 (C) 6,500 (D) 4,300

問 24. 精算表のケに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 24 にマークしなさい。

(A) 37,800 (B) 53,900 (C) 20,800 (D) 31,800

問 25. 精算表のコに当てはまる金額を、次の (A) ～ (D) より選び、解答欄 25 にマークしなさい。

(A) 652,100 (B) 821,200 (C) 859,000 (D) 689,900

【IV】 次の一連の取引について以下の問 26 から問 30 に答えなさい。

問 26. 会社設立にあたり、株式 200 株を 1 株につき¥50,000 で発行し、全額の払い込みを受けて払込金は当座預金とし、株式の発行費用¥400,000 は小切手を振り出して支払った。仕訳のアとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 26 にマークしなさい。

(借) 当 座 預 金 10,000,000 (貸) () 10,000,000
(ア) 400,000 当 座 預 金 400,000
(A) 株式交付費 (B) 資本金 (C) 資本準備金 (D) 創立費

問 27. 会社設立にあたり、発起人が設立準備のために立て替えていた定款作成費、設立登記等の費用¥500,000 を支払うために小切手を振り出した。仕訳のイとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 27 にマークしなさい。

(借) (イ) 500,000 (貸) 当 座 預 金 500,000
(A) 開業費 (B) 株式交付費 (C) 創立費 (D) 立替金

問 28. 開業準備のための諸費用¥300,000 を支払うために小切手を振り出した。仕訳のウとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 28 にマークしなさい。

(借) (ウ) 300,000 (貸) 当 座 預 金 300,000
(A) 開業費 (B) 株式交付費 (C) 資本準備金 (D) 創立費

問 29. 事業規模を拡大するため新たに株式 300 株を 1 株につき¥50,000 で発行し、全額の払い込みを受けて払込金は当座預金とし、1 株につき¥20,000 を資本金としないことにした。仕訳のエとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 29 にマークしなさい。

(借) 当 座 預 金 15,000,000 (貸) () 9,000,000
(エ) 6,000,000
(A) 株式交付費 (B) 資本準備金 (C) 利益準備金 (D) その他有価証券

問 30. 事業規模を拡大するための株式の発行費用¥600,000 は小切手を振り出して支払った。仕訳のオとして、次の (A) ～ (D) より最も適切なものを 1 つ選び、解答欄 30 にマークしなさい。

(借) (オ) 600,000 (貸) 当 座 預 金 600,000
(A) 開業費 (B) 株式交付費 (C) 資本準備金 (D) 創立費